



お知らせ

N E W S

発行:2017年10月13日

●Topics 診療科の取組案内…整形外科／第三内科
●Information …平成29年度山形大学医学部公開講座のお知らせ

診療科の取組案内 1 整形外科

Topics

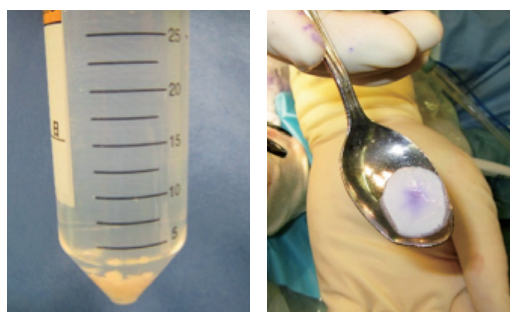
超高齢社会を迎え、より健康で長生きすることに注目が集まっています。健康寿命の延伸のためには運動機能を維持することが重要です。またご高齢の方ばかりでなく小児運動器疾患、スポーツ障害など、幅広い世代の運動器疾患を診療し、健康を支える整形外科の役割は非常に大きいものとなっています。

早期社会復帰、機能温存を目指した
脊椎疾患や悪性骨軟部腫瘍の治療

高齢化、骨粗鬆症患者の増加に伴い、脊柱変形や難治性の椎体骨折が増加していますが、より低侵襲な側方侵入椎体間固定や経皮的椎弓根スクリュー固定を行い、早期離床を可能にする先端的な手術療法を行っています。また、悪性骨軟部腫瘍も治療が長期化する疾患の1つですが、アクリジンオレンジ・放射線併用療法を組み合わせた手術療法を行い、神経血管への侵襲の少ない患肢温存療法に取り組み、機能障害を最小限とし、早期社会復帰が実現しています。

軟骨再生医療

軟骨損傷（外傷や離断性骨軟骨炎）に対する治療として、自家培養軟骨細胞移植術を全国でも早くから取り組んできました。患者自身の軟骨組織を採取し、体外で軟骨細胞を培養、増殖してゲル化シートを作成し、軟骨欠損部に移植するもので、軟骨再生を促す治療法です。離断性骨軟骨炎や外傷性の軟骨欠損による関節障害でお困りの患者さんがいましたら是非ご紹介ください。



膝関節から採取した軟骨組織（左）と培養後（移植直前）の軟骨組織（右）

最先端の鏡視下技術を用いた
安全、低侵襲治療

関節鏡を応用した先端的、低侵襲な治療を積極的に取り入れています。従来から行われていた肩関節や膝関節ばかりでなく、肘関節（野球肘や関節リウマチ）や手関節（三角線維軟骨複合体損傷）、股関節（大腿寛骨臼インピンジメント症候群）、足関節（距骨骨軟骨障害）、また、関節以外でも手根管症候群や胸郭出口症候群に対しても関節鏡を用い、患者さんの負担軽減を目指しています。今後も最先端かつ安全、低侵襲な治療を行います。

多様な病診連携ネットワーク

関節リウマチ病診連携ネットワーク”やらんなネット”が立ち上がりました。県内各地区から年100人以上の難治性多発関節炎患者さんをご紹介いただいています。病状が落ち着き次第、紹介元の先生に治療継続をお願いし、循環型病診連携を進めています。大腿骨頭壊死症、広範囲骨欠損を有する人工関節のゆるみ、インプラント感染症などの難治例、全身合併症を有する患者さんが県内外から紹介されています。キャンサートリートメントボードをはじめとした他科との連携、立体模型を利用した術前計画、ハイブリッド手術室を使用した正確な手術など、大学病院の特性を生かした治療を行っています。今後も最先端で多様な運動器の治療を通して、山形県全体の医療に貢献できるよう引き続き病診連携を進めて参ります。引き続き、患者さんのご紹介をよろしくお願い申し上げます。



山形地区関節リウマチ病診連携ネットワーク”やらんなネット”ポスター

〈神経内科〉最新の知見にもとづく神経疾患の診断と治療

神経内科では、神経疾患の診断・治療に幅広く対応しております。中でもパーキンソン病、正常圧水頭症を含む認知症性疾患は、高齢化に伴い今やcommon diseaseであり、専門医療機関と診療所の病診連携の重要性が非常に高まっております。当科では、神経疾患の適切な診断と治療方針を提示させていただくことで、山形県の神経疾患診療の質の向上を目指しております。また、筋萎縮性側索硬化症を代表とする神経難病、脊髄疾患や末梢神経疾患、筋疾患、高次脳機能障害などについて

は、遺伝子診断をはじめ新たな知見が日々積み重ねられており、これらに基づいた診断と治療を進めております。当科へご紹介いただく際には、できる限り詳細な病歴と経過をお示しいただくことで、より正確な診断にたどりつけるものと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。今後も山形県内の神経疾患の医療に貢献できるよう努力してまいります。

〈糖尿病・代謝内分泌内科〉きめの細かい糖尿病・内分泌疾患の診療

糖尿病診療では、最新のインスリンポンプや24時間持続血糖測定システムを導入し、1型糖尿病はもとより、難治性の2型糖尿病、癌や虚血性心疾患、膠原病等の合併例など、多彩な局面での血糖管理に対応しております。更には、看護師、栄養師を含めた糖尿病診療チームを組織し、透析予防やフットケア外来などの療養指導の充実も図っております。また、1989年より舟形町の糖尿病住民検診を継続し、地域

医療への貢献と糖尿病発症に対する疫学研究を進展させております。代謝内分泌診療では、一般病院で対応困難な症例を積極的に受け入れ、各種負荷試験、画像検査、カテーテルサンプリング検査等による確実な診断と各種ホルモンの適切な補充療法を実践しております。今後もこの分野における山形県の高度医療の提供と発展に努めてまいります。

〈血液内科〉標準治療実施と新規治療法の開発

血液内科は鉄欠乏性貧血等の良性疾患から急性白血病・悪性リンパ腫等の悪性疾患まで幅広く診療し標準治療を実施しています。血液疾患の特徴は原因解明が日々進んでいる点です。特に慢性骨髄性白血病では、原因遺伝子の解明が薬剤開発に繋がり、遂には劇的に予後の改善を果たした好事例です。当分野では様々な血液疾患において新規治療薬の探索・開発を積極的に実施しています。

また当科は県内で唯一の骨髄バンク認定施設です。自家移植・同種移植（骨髄、末梢血、臍帯血）をはじめ、ドナー選択拡大を目指した最先端の移植法のHLA半合致移植（ハプロ移植）においても全国規模の臨床試験に参加しております。最新の治療を通して山形県内の血液医療に貢献できるように努めてまいります。



第3内科医局カンファレンスでの症例検討会

Topics

山形県医師会と山形大学医学部との懇談会を開催しました

平成29年8月30日(水)、ホテルメトロポリタン山形において山形県医師会と山形大学医学部との懇談会を開催しました。

この懇談会は、山形県医師会と山形大学医学部との連携を推進するために毎年開催しているものであり、今後の医療に関する様々な諸課題に対処していく上で非常に大事な会議として位置づけられています。

懇談会では、最初に山形大学医学部から、新専門医制度の現況及び今後のスケジュール、医療事故調査制度に対応するために県医師会と連携して設置した山形県医療安全支援協議会の活動状況、重粒子線がん治療装置導入の進捗状況及びゲノム医療の推進について情報提供を行いました。

次いで、山形県医師会から、県医師会及び日本医師会を取り巻く諸問題として、医師会組織強化のための協力依頼があった後、地域医療構想における医師の確保・偏在解消への対策として、蔵王協議会(会長は嘉山孝正山形大学医学部参与)、県、県医師会等の連携が今後さらに重要になる旨発言がございました。

なお、懇談会終了後には、隣室で情報交換会を開催し、活発な意見交換を行いました。



(左)山形大学医学部 (右)山形県医師会

Information

平成29年度
山形大学医学部公開講座のお知らせ

最新の排尿障害治療と 排尿リハビリテーション・ケア

- 開催日時:平成29年11月12日(日)13:00~16:00
- 受講対象者:医療従事者、医学生及び一般市民
- 受講料:4,000円(テキスト代を含みます)
- 場所:山形医学交流会館
- 募集人数:100名
- 受講の手続き:

申込期間/平成29年10月27日(金)まで
申込方法/下記問合せ先にご連絡下さい
問合せ先/山形大学飯田キャンパス

事務部総務課庶務担当

〒990-9585

山形市飯田西2-2-2

TEL.023-628-5014 FAX.023-628-5019

